

赤い靴通信 424号

横浜市歌は軍人であり、文豪でもある森鷗外先生が作詞され、横浜開港50周年に発表されました。私も小学校に入ると歌い始め、今でも好きな歌です。その時代の詩ですから今の人にはわからない部分も多いかもしれませんが。「この横浜に勝るあらめあ」これはこの横浜を越えるものはないだろうですね。「昔思えば苦(とまや)の煙」古い家から出ている煙ですね。「今は 百船(ももぶね)、百千船(ももちぶね)」最初は難しいのですが、何度も歌っていると情景が浮かびます。実は私の母校「Y校」の校歌も鷗外先生の作詞なのです。

私がこどもの頃の横浜人は、「ヒ」の字と「シ」の字の発音がなぜか入れ替わるのです。横浜人には難しく「わがシの本はヒまぐによ。朝シかがよう海に・・・連なりそばたつ島々(ヒマジマ)なれば」と歌ってしまうのです。今でも時々分からなくなり苦笑しています。1854年、黒船が江戸湾の中に入った頃、この横浜村は人口3000人、家の数は100軒足らず、半農半漁の一寒村であったのです。ペリー提督は日本は鎖国を止めて世界と文化の交流、貿易を、その為に開港を求めてきました。幕府は、江戸ではなく港は隣の横浜村が良かろうと言ったことになりました。開港と同時に世界中から様々な文化が入り、生業のために大勢の国内外の人が横浜へ横浜へとやって来ました。現在では人口も376万人になり日本一の東京都に次いでの大都市になりました。この160年くらいでこのように多くの人口になった都市は世界に類はないといえます。この間には震災有り戦争有りで何度か壊滅しましたが、私たちの先人たちはめげずに横浜を立て直し、住みたい街横浜を守りました。

実は横浜に由緒有る三つの古いビルがあります。最近では日本最高を誇っているランドマークがありますし、世界中に高さを競う建築物が出来ていますが、明治大正時代の塔はその影に隠れて今は余り見えないのですが、慶応4年に出来た裁判所が神奈川県庁となり、税関は1934年、開港記念会館は102年前に出来ています。ある日、横浜港に入港した外国船の船員の目にそびえる三つの建物が目に飛び込んで来たのです。あたかも県庁がトランプのキングのようにどっしりとしていて、税関の塔は女性の美が出ていて、クイーンだなーと思い、そして開港記念会館は小さな少年のようだと言ったのです。その後誰が言ってもなく横浜の三塔ということになったのです。今ではお土産にもなって評判です。神奈川県庁と横浜開港記念会館は国指定の重要文化財になっています。昔はヨーロッパの建物のように装飾性の多いものが多かったのですが、おしゃれでシンプルな横浜にぴったりの建物に人々は惹かれます。

私が通った小学校は日本で一番初めにできたコンクリートの校舎でしたが、現在は武道館になりました。古い横浜文化体育館は武道館とアリーナになります。まだ見に行っておりませんが完成が楽しみです。以前の文化体育館では世界中の子供の体操の選手権がありました。将来オリンピックで活躍するであろうこともたちが体操、跳び箱、鉄棒などを見せてくれました。この2〜3年はコロナ禍のため大会は開催されなかったのですが、今年も残念ながらもまた罹患者急増のため急遽中止の連絡がありました。本来ですと私どもの赤い靴ジュニアコーラスがオーブニングセレ



横浜市民子どもミュージカル「横浜三塔ねご物語 2022」舞台風景

モノで名詞・名曲の「横浜市歌」を歌う予定でした。さて、7月31日(日)には、私どもが主催し、中区役所、関内ホールが共催する第16回中区ダンスフェスティバルがありました。過去最多の子供を含む600名・37団体が関内大ホールに集いオールジャンルのダンスを披露いたしました。観客も多く、1000人を越えました。当日の進行には最善の工夫をし、沢山のスタッフの協力も得て、無事に好評の裡に終えることが出来ました。ただコロナ禍を恐れることなく、コロナ禍と一緒に行動しながら会の流れをスムーズに有意義に終わらせることが必要でしたので、このスケールの大きなフェスティバルでは、出演者の踊り手からも多くの感謝と満足のお声が寄せられ、健康管理期間も無事に過ぎて一件のクレームもなく終わりました。大変な快挙です。

そして、横浜市民子どもミュージカル「横浜三塔ねご物語2022」ですが、8月6日(土)、7日(日)関内小ホールにて4回の公演をいたしました。前に神奈川県からマクガルコンペ最優秀賞を頂いた作品です。前述のキング・クイーン・ジャックに野良猫たちが願いを込める物語です。地元を舞台に猫たちが活躍するハートフルなミュージカルに多くの方々が見てくださいました。「皆さんの心のこもった演技、美しい歌声に癒やされ、感動しっぱなしの80分でした。皆で力を合わせて舞台を作っていくことは素晴らしいです。このような機会を頂き感謝です。」などのアンケートを頂き、私共も同じ空間にいて感動を共有しています。ありがとうございます。

私どもこどもの頃から好きで小学校3年生くらいから、こどもミュージカルの脚本を書いていますが、おかげ様で5年生の頃、演出もした「神代のこどもたち」が最優秀賞、他のクラス用の脚本「昭和の桃太郎」が脚本賞を頂きました。事業団では「空飛ぶ赤い靴」「クレーメ魔女スクール」「忍者横浜合戦」「ミケ・ランジェロ」「新浦島物語」などですが、今回のミュージカルを見てまた意欲が出てきました。

「赤い靴通信422号」で書いた小2で「あやとり教室指導員」の資格を取得し、活動している大坂聡志くんのお母さまから嬉しいメールが届きました。今月号は紙面に入りませんので次号で続きを書きたいと思っています。

2022年7月31日分(発行8月10日) 団長 松永 春

今後のスケジュール

★8/19(金) 「第16回東大忌」 会場：元町あかいくつスタジオ ※ザ・シワクチャーズ横浜 他
★10/15(土)・16(日) 「東京湾大感謝祭 2022」 会場：横浜大榎橋ホール ※詳細は後日
★11/13(日) 「ハローよこはま」 会場：象の鼻パーク特設ステージ 出演：赤い靴ジュニアコーラス ※詳細は後日
★11/20(日) 音楽劇「青い目の人形」 会場：横浜人形の家 赤い靴劇場 出演：音楽劇団「まっかなホント」 ※詳細は後日
★12/2(金) 「中区音楽遊々」 会場：関内小ホール ※詳細は後日
★12/31(土) 大晦日 よこはまメルヘン 「童謡を歌い継ごう」 場所：山下公園内「赤い靴はいてた女の子像」を囲んで 時間：12/31 23:45~1/1 0:15 参加費：無料 自由参加